

特集/農業

～明るい農村社会をめざして

〈シリーズ〉ふるさとみてある記

魚津市

県広報



1990
No.258

7

背泳ぎの小野郁さん。ふるさとの熱い期待を背負って、県総合体育センターで練習に励む。



厳しい川・優しい川

北日本新聞説話顧問 兼久文治
洗足学園魚津短大講師

雨がっぱの中へも水が染みとおるような激しい豪雨が続けていた。視界はゼロに近い。「黒部川はらん」の一報で新聞社社会部の私たちが富山から駆けつけた時には、堤防は各所で欠壊、濁流はすでに稲を根こそぎにして住宅に流れ込んでいた。荒れ狂う本流は樹木どころか巨岩をも巻き込んで、どろろく川底の響きが、立っている足元まで伝わってきた。「権蔵橋が切れた」という悲痛な叫びが聞こえた時だった。横をすり抜けてカメラマンのN君が走った。中ほどで切れた橋を渡ろうとしている。「危い」「止める」そんな怒号の中で彼は走った。切断箇所でフラッ

シユが光った。彼が引き返したのとほとんど同時だった。橋は一回二回と大きく揺れて、まるで枯木をへし折るようにならぬ姿を消した。

昭和二十七年七月一日、京都から富山へ来たばかりの私は、初めて見る富山の川のすさまじさに、しばらく震えが止まらなかつた。それから三十年代の中ごろまで、まるで年中行事のように水害の現場へ走った。そのたびに、「川でなく滝だ」といったデレーケの言葉が身にしみた。それとともに越中の川を無視する加賀側議員に怒った富山県が、明治十六年、石川県から分県した気持ちのみこめた。そしてこの暴れ

川と闘い続けた数々の血と涙の歴史を知った。今「親水」とか「利水」とかいう。もっと親しめる川へ、いろんな提案も整備もされている。が、その陰に今も続く「治水」の苦勞を忘れてはなるまい。「ダムのおかげで洪水がなくなった」という。もちろんダムは功績は大きい。しかしそれだけではない。築堤、護岸、掘削、水利などの改修工事や、流路工や山腹工などの砂防工事の地味な苦勞が営々と続けられていることを知って欲しい。

親しめる優しい川も治水があつて初めて可能だ。たとえば、コイが泳ぎ、桜並木の下を観光舟が往来する富山市松川は、長く上流で切られたままの死んだドブ川だった。これを生き返らせたいのは、神通川支流の土川から水を引き入れた改修工事のおかげだ。県河川環境活用委員会の答申で七河川流域の環境は次々と装いを新たにしている。私も出席しているが、席上、必ず話題になるのは治水の重大性だ。大自然を造り変えるのではなく、どう大自然をそのまま生かして活用し、子孫に受け渡していけるかこそが、この委員会の最大の使命でなくてはならない。そのことをふまえて、県民はこの川々との、もっと楽しいつき合い方を考えて欲しいと思う。

悪魔のように細心に! 天使のように大胆に!

とやま賞 立川志の輔さん



ひと
アズ
とやま



「富山のことをネタにもうけさせてもらっているのに、こういった名誉な賞をいただいて大変恐縮しています。本当は私が県民の皆さんに差し上げたいくらいです。」各分野で顕著な業績を挙げ、将来の活躍が期待される人に贈られるとやま賞。今年度は、落語家の立川志の輔さんをはじめ、五名一団体に贈られました。志の輔さんは、新湊市出身。明治大学時代に落研に所属、卒業後、劇団「昂」、広告代理店勤務を経て昭和五十八年立川談志さんに入門し、今年五月に立川流真打ちに昇進しました。

「広告代理店の時、安い屋台で愚知をこぼしている自分自身に嫌気がさしました。一生充実感のない毎日を送るよりも、たとえ失敗してもいいから、自分の好きな道を進もうと思ひ、落語の世界へ飛びこみました。」転職の動機を語る志の輔さん。エネルギーシユな口調が印象的です。

「黒澤明さんの『悪魔のように細心に！天使のように大胆に！』という言葉が好きです。自分も舞台上に上がるまでは細心に笑いを計算し尽くし、一旦舞台上に上がれば一切の計算を忘れて大胆に演じたい。舞台に対する情熱は大変激しいものがあり、見る者の心に迫ってきます。」

寄席のほかにテレビ、ラジオで週五本のレギュラーを持っている志の輔さん。超多忙の毎日ですが、今年の三月から富山市のオルビスで月一回、「志の輔倶楽部」を開いています。「東京富山という区別はなく、富山でも東京と同じ事をしゃべっています。ともかく芸人が生の舞台に立てるといふことは、この上もない喜びです。富山での公演を成功させることに今、全力を注いでいます。」と力強く語る志の輔さん。ただ今、絶好調です。



感動の波を全国に広げよう

映画「少年時代」いよいよ公開



▲藤子不二雄さんのサイン会も

富山県を舞台とした映画「少年時代」の特別試写会が、五月二十九日富山県民会館大ホールに満員の観客を集め開催されました。

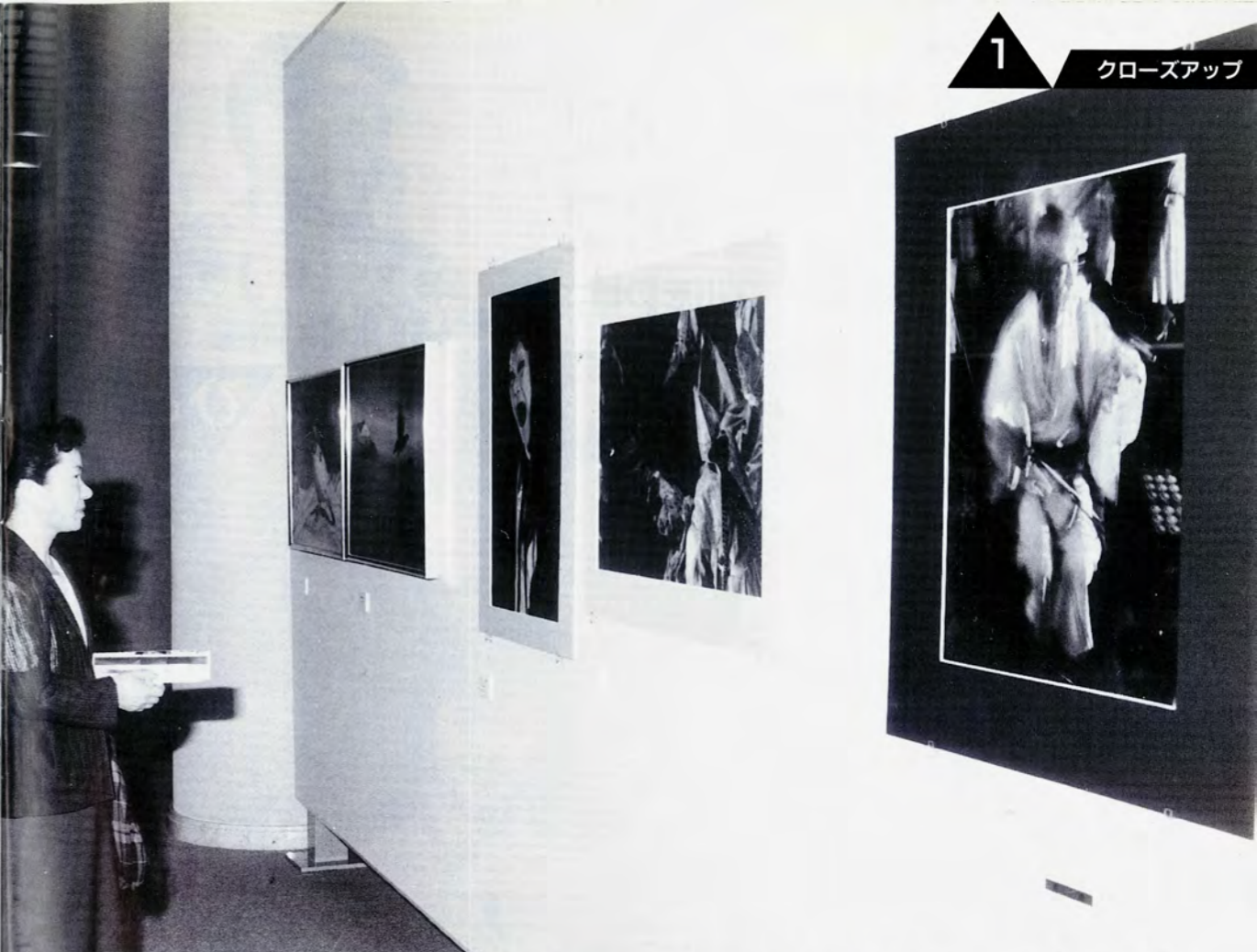
中沖知事、前川富山商工会議所専務理事のあいさつの後、藤子不二雄、岩下志麻、篠田監督さんらがそれぞれの映画に対する熱い思いを語りました。続いて子役の少年達が紹介され、上映に入りました。

映画「少年時代」は、戦時下の富山で東京からの疎開児童と地元少年達の心の葛藤を描いた作品で、昨年の夏に撮影スタート。季節を追って県内ロケが行われ、今年四月にクランクアップしたものです。

上映中、観客の笑いを誘うシーンがあったり、また、ラストシーンでは会場全体が静かになったりと二時間の上映時間が非常に短く感じられました。終了後直には会場いっばいに拍手が鳴り響き、感動の波がホール全体を包み込みました。

「少年時代」は七月七日から全国に先がけて富山・高岡市内の劇場で公開され、全国公開は八月十一日から。

また、この映画のキャンペーンのため、富山市内のデパートでは「少年時代」のステール写真・原画展が開催されました。テブカットに引き続く藤子さんのサイン会には、長い列ができていました。



「写真によるドキュメント・トヤマ'90」



▲写真家荒木経惟氏とフォトエディターの長谷川明氏の対話

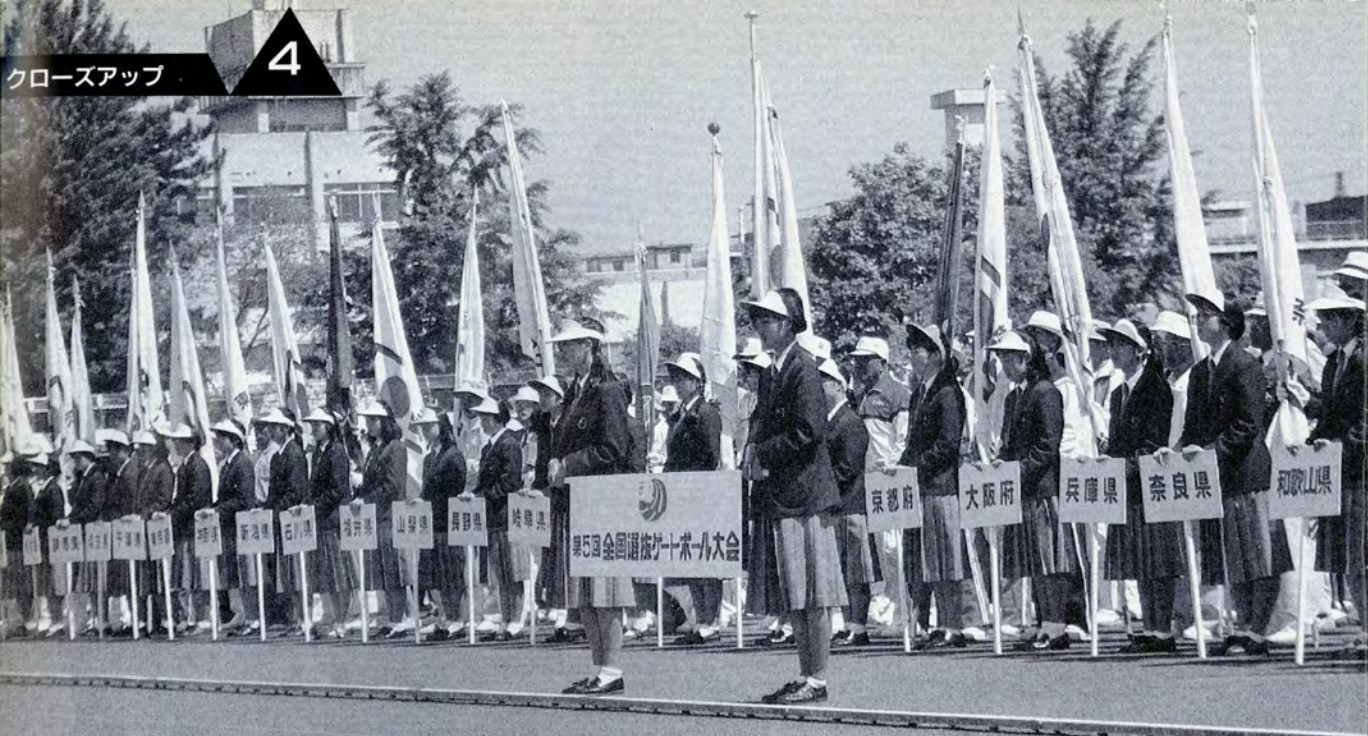
五月二十六日から六月二十四日まで県立近代美術館で「写真によるドキュメント・トヤマ'90」が開催されました。

この写真展は、写真の優れた記録性と芸術性を生かして、継続的に富山県の移り変わっていく姿をとらえようと企画されたもので、今回で二回目です。

この写真展では、富山在住の作家の入選作品を展示した公募部門と、今回新たに設けられた、わが国を代表するドキュメント写真家十人の作品を紹介する企画部門とに分かれ、合わせて百十三点の作品が展示されました。

公募部門では、県知事賞を受賞した田中宏昌氏の「冬のシンクロウ」ほか、六十二人の作品が展示されました。また企画部門では、荒木経惟氏の「T O K Y O N U D E」や鬼海弘雄氏の「王たちの肖像」など、十人の作品が紹介されましたが、中でも四百七十人余りの中国残留孤児の写真を並べた新正卓氏の「私は誰ですか」は、訪れた人たちの目を引いていました。

また六月二日には、写真家の荒木経惟氏とフォトエディターの長谷川明氏による公開対談が行われました。対談では二台のフォト・プロジェクトを使った「アラキネマ」の上映を織り交ぜながら荒木氏独自の写真論が展開され、詰めかけた聴衆は二人の熱のこもった対談に聞き入っていました。



やったぞ日本一!戸出西部チーム

第5回全国選抜ゲートボール大会

健康づくりとともに全国の仲間との交流を深めながら楽しくゲームを競いあう、全国ゲートボール大会が五月二十六日と二十七日の二日間、富山市五福公園で開催されました。

大会には各県から選抜された一九二チームが参加。さわやかな五月晴れのもと、十三歳の女子中学生から八十八歳のお年寄りまで、色とりどりのユニフォームに身を包んだ約千三百人が堂々の入場行進を行いました。

笹川良一大会会長、中沖知事らのあいさつに続いて、各クラス代表の県選手四人が力強く選手宣誓を行いました。

競技に移り、男女別に六十歳以上のシニアクラスと六十歳未満のミドルクラスの四クラスに分かれ、熱戦を繰り広げました。

県勢の活躍はめざましく、三チームが決勝戦に進出。その結果、ミドルレディスクラスで戸出西部チームが富山県初の日本一の栄冠をつかみました。



▲優勝した戸出西部チーム、知事を表敬訪問

第39回全国ろうあ者大会



広げよう手話の輪

第39回全国ろうあ者大会開催



▲テーマ別に研究発表



▲式典では中沖知事が手話を交えて歓迎のあいさつ

「いま、富山から飛躍（ジャンプ）」をメインテーマに、第三十九回全国ろうあ者大会が五月三十一日から六月三日までの四日間富山市で開催されました。大会には全国の聴覚障害者、手話ボランティア関係者、福祉学校教諭ら二千五百人が参加。初日は県社会福祉会館で全日本ろうあ連盟の理事会などが開催され、本年度の運動方針などについて話し合われました。また、二日の午後からは手話、教育、労働などのテーマ別に、聴覚障害者問題に関する研究分科会が開かれ、研究発表や活発な議論が交わされました。

大会式典は三日、富山市公会堂で行われ、島崎克己県ろうあ福祉協会長らのあいさつに続き、中沖知事が手話を交えて歓迎の言葉を述べました。ろうあ者福祉に貢献のあった五個人、七団体の表彰の後、「来年、日本で開かれる世界ろうあ者会議を成功させ運動の輪を広げていく」との大会宣言を採択して閉幕しました。

農業

明るい農村社会をめざして

明日を拓く人づくり



農業は私達の毎日の生活に欠くことのできない食料を安定的に供給する産業であり、活力ある県づくりのための基盤的役割を果たしています。

しかし昨今の農業をめぐる情勢は、農畜産物の需給不均衡に伴う生産調整や生産物価格の低迷、更には牛肉をはじめとする農産物の輸入自由化問題など、大変厳しいものとなっています。

このような状況のなか、生産性の高い足腰の強い農業を実現し、豊かで潤いのある農村社会を築いていくためには、高い技術水準や整備の行きとどいた農地など、本県農業の特色を生かした力強い地域農業の推進が必要であり、とりわけ優れた資質を持った後継者を育成することが最も大切であると言えます。

二十一世紀に向けて富山県の農業が着実に発展していく基本的な方向を、人づくりの視

点から見てみましょう。

1 富山県農業の現況

① 米に特化した生産構造

本県の農業粗生産額は約千億円（六十二年）であり、そのうち米が約七百七十八億円と全体の七〇・一％（全国平均二八・二％）を占めています。この要因としては、全国一の水田率や、全国に先がけ積極的に進めてきた高いほ場整備率があげられます。

② 良質米の生産と特産王国づくりの推進

コシヒカリを中心とした自主流通米が総出荷量の九割以上（元年産米）を占め、主要消費地へ安定的に供給され良質米生産県としての確固たる地位を築いています。

また一方では、地域に根ざした、野菜、果樹、花き球根、さらには、肉用牛等の飼料を自給する土地利用型畜産の振興を図ることなどにより、富山ならではの特産王国づくりが進められています。

③ 減少する農業後継者

一年間に百五十日以上農業に従事する六十歳未満の男性がいる農家数は、元年初現在二、二八〇戸で、全農家に占める割合は三・七％となり、全国的にも低い水準となつてい



創意工夫の米づくり10年

(水稲部門)小矢部市

高田法定(30)さん



「子供の頃、夜遅くまで農作業をしていた両親を、空腹に耐えかねて迎えに行き、早く帰りたいのでよく手伝いました。その頃から土のあたたかさや土の匂いは好きでした。何となく心がやすらぎますね」。小矢部市興法寺で大規模な水稲作りに従事している高田法定さん。就農の動機を語ってもらいました。

自作地二ヘクタールと全面受託地二十六ヘクタール合計二十八ヘクタール。一般の兼業農家の人なら腰を抜かしそうな広さです。この農地を高田さんとその両親及び年間延べ五百人の臨時雇用の人たちが耕作しています。

高田さんの経営の特徴としては、まず第一に十分な労働力を確保していることがあげられ、いつでも頼める人が十七人もいるとのこと。二番目は農業機械の耐用年数延長に、力を入れていることです。高田さんは県立技術短期大学の農業機械科を卒業後、農業機械整備士二級の免許を取得。このため機械にはとても強く、冬の間の整備を十分に行い、シーズン中の故障を未

然に防ぎ、機械作業効率を上げ、かつ修理費の減少に努めています。また受託した水田の既存農業機械の処分をしています。これは委託者の希望に添って、機械の売却や廃棄などを行い、受託がより円滑に進むようにするものです。第三に、冬期間の収入の確保と米の消費拡大という見地から、身欠ニシンを購入し、自家製のこうじと米ぬかを加工・販売しています。

「国の農業に対する確固たる長期展望を早く示してもらいたい。その上で、今後の経営安定への道を探り、よりよい米作りを目指して頑張っていくたい」。創意工夫の米づくり10年。汗を流して知恵を出す。高田さんの今後の活躍が期待されます。

ます。
また、農業に従事する人の高齢化が進む一方、新規に就農する人は毎年十数名前後にすぎず、後継者の確保が極めて難しくなっています。

2 意欲あるにない手の育成

高い生産性と農業所得を確保し、「農業」を産業として活性化していくためには、経営規模の拡大や生産の組織化などとともに、中核農家を核に兼業農家をまき込んでの「地域ぐるみの農業」を推進することが必要です。

この中心的にない手として、優れた技術力と経営力を有し、企業者マインドを持って意欲的に取り組む中核農家を育成していかねばなりません。このため県では、次のような施策を展開しています。

1 中核農家の育成

地域農業のリーダーとしての中核農家育成のため、金融制度等の充実を図っています。また、地域農業の核となる中核農家等の認定登録者を増やし、経営の支援を図ります。さらに、国際化の進展に対応し、経営体質の強い農業者を育成するために、高度先進技術や経営に関する体系的な研修を行うとともに中核農家等の海外派遣を推進します。

次代の本県農業をになう若い農業者を、地域ぐるみで育成します。
このため、小・中学生段階から農業学習を促進し、農業の重要性について理解を深めます。

また、新規就農者やUターン就農者の資質を向上するため、体系的研修制度を充実しています。今年六月に富山市吉岡にオープンした富山県農業総合研修所は、「人づくり」を体系的に進める拠点としての役割を果たします。一方、若い農業者に活力を与え、創造性豊かでたくましい青年農業者を育てるために、制度融資や青年農業者育成基金が活用されています。

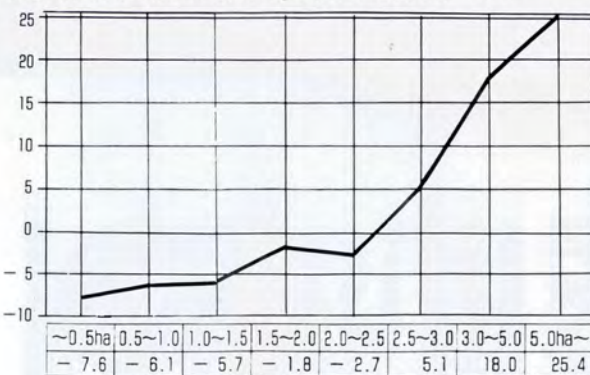
それでは県内各地で頑張っている農業青年の活動の状況を紹介いたします。

〈農業生産のにない手〉戸、人、%

	元年(実数)	構成比	60→元
農家数	62,260	100.0	- 6.2
専業農家	2,620	4.2	7.3
兼業			
第1種	3,260	5.2	-17.2
第2種	56,380	90.6	- 6.0
中核農家	2,280	3.7	-24.4
農業就業人口	67,060	100.0	- 4.8
うち婦人	45,120	67.3	- 5.1
うち60歳以上	42,320	63.1	8.4

「農業センサス」及び「農業調査」から

(単位：%) 〈経営耕地規模別農家数の増減率〉(63/60)



農林水産省「農業センサス」、「農業基本調査」



りんごの香りは

ロマンの香り

(園芸部門)魚津市 畠山 正(33)さん



青いつぼみがほのかに匂う。りんご園の中に一歩足を入れると、本当にそこは別世界。りんごの木の枝葉が縦横に伸び、太陽の光を微妙にさえぎって、何か幻想的な感じさえする。この美しいりんご園で、加積りんごを栽培しているのが畠山正さん。

十五年前に家業を継ぐため、長野短大りんご研究科へ入学。二年間勉強した後魚津の実家へ戻り、りんご園を継ぐ。短大の二年間は技術的な面より精神的な面で大変貴重な時期でした。長野県野原の学生はやる気がある人が多く、自分もいい意味で刺激になりました。

当時りんごの景気が大変よい時期で、当然もうかるという意識も手伝って、迷う事なくりんご栽培を始めたという畠山さん。

「この仕事は自然が相手だから、リスクも大きい。それだけに収入は普通のサラリーマンの二倍程ないとなかなかやる気にはなりませんね。でも今のりんごの値段は、景気の良かった時とほとんど変わっていないので、実質的には大幅な収入減ですよ。この収入減を補うためには、生産量を高めるより他に手はありません。それでりんご園に隣接していた水田をつぶして面積を広げたり、古い木を新しいものに改植して、生産量の増大を図っているのにとです。

「りんごを一生懸命に育てて、秋になってたわわに実ると人にあげるのが惜しくなり、このままにしておきたいと思うこともあります。りんごに対する思いは、消費者の我々には想像できないくらいに熱いものがあります。

「魚津の加積りんごはまだ一部の人のしか知られていません。これを全国的に有名にするのが私の夢です。それには味で勝負するしかありません。姿、形は涼しい気象条件の青森や長野には及びませんが、甘味は逆に暖かい所が有利です。これをセールスポイントにできるように、頑張っていきたいと思います。夢の実現を期待しています。

おめでとう！

三年連続「農林大臣賞」受賞

(畜産部門)立山町 村木義春(35)さん



三日に一度は食卓を飾る豚肉。豚肉は庶民の肉として多くの人に親しまれています。この豚肉を生産するために日夜頑張っているのが立山町半屋に在住の村木義春さん。生き物を取り扱っているのとあって、優しい目が印象的です。

村木さんは養豚業の三代目で、高校を卒業した後、一年間栃木県の先進農家で豚の飼育を体験学習しました。

「お金は小遣い程度だけもらい、休日もほとんどなしの大変厳しい毎日でした。しかし、家には体験できない飼育のノウハウを体得したことは、自

分にとって大きな財産となりました。」

その後、家業を継いだ村木さんにとって、畜産情勢は決して安易なものではありませんでした。肉豚の販売価格がじりじりと値を下げ、収入減となったのです。

このため豚舎の増改築を行い生産量を増大する一方、自動エサ付与器等等の導入による省力化などにより生産コストの削減を図り、収益の落ち込みを補いました。

この積極的な姿勢が実を結び、毎年十月の全国農林水産祭の豚部門において、六十二年以来三年連続農林大臣賞を受賞したのです。

「施設の拡張は今後も必要ですが、周

辺住民からの悪臭に対する苦情問題、堆肥化したふん尿の処理問題と難問が山積みしています。愛着のある養豚業を続けて行くためにまた、食卓から豚肉を消費しないためにも皆さんの協力と理解が必要です。たくさんのハードルを越えてきた村木さん。今新たなハードルに向ってチャレンジします。



トピックス

ノーベル平和賞のボーローグ博士来県 稲塚氏ゆかりの城端を訪れ講演



「緑の革命」の功績でノーベル平和賞を受賞したアメリカの農学者、ノーマン・E・ボーローグ博士が六月一日来県しました。発展途上国の農業生産を飛躍的に向上させ、食糧問題の解決に寄与した多収穫のメキシコ小麦の母体である「小麦農林10号」の生みの親稲塚権次郎(故人)の出身地、城端町を訪れました。ボーローグ博士はこの日、稲塚氏の生家を訪れ、近くの胸像前でイチイの木を記念植樹。農家の人と懇談した後、午後からは南砺農業会館で「小麦農林10号と緑の革命」と題して記念講演。

会場は平日にもかかわらず超満員となり、熱気に包まれていました。講演終了後、富山県庁へ中沖知事を表敬訪問。中沖知事から「これからも世界の平和のために貢献してください」と、県の伝統工芸品である獅子頭が贈られました。





果てしなき コバルトブルー 汗して競う

スリルとスピード いろとりどりの青春

ジェット・スキー (黒部石田浜)
撮影 / 赤羽仁諭

PIN-UP TOYAMA

平成二年 国勢調査 富山県実施本部



「県民の皆さんのご協力に～国勢調査の年です」

レポーター：小栗智佳子さん(ミス七夕)

「県民の皆さんのご協力に～国勢調査の年です」



高校進学率、平均貯蓄率、持ち家率…正確なデータからはじき出される数値は、事実を物語ります。富山県の良いところも悪いところも、如実に表すのです。統計課では、国や県の行政に必要な様々な基礎数値を得るための統計調査を行い、客観的に行政を見つめています。

調査の実施・整理・公表

「統計課」ってどんな仕事をしている所かご存知ですか？「聞いたことはあるけど、内容までは…」という方が多いのではないかと思います。私もその一人。『今回の取材で少しでも理解できれば』と期待しつつ、統計課へおじゃましました。

国人居住者の実態を明らかにすることが挙げられます。そして、その結果は、国・地方公共団体の行政の基礎資料になるので、「県民の皆さんに正確な記入のご協力をお願いします。」とおっしゃっていました。

社会の変化を知りたいために統計にしよう！興味を！

このように統計課の仕事は、大変手間がかかる割に地味なものが多く、一般県民の方には、理解されにくいことのように思われました。課の皆さんも、少しでも多くの方に、仕事に対する理解と、「統計」に対する興味と親しみを持ってもらおうと、一生懸命努力されています。

例えば、目で見えるものとしては、統計課編といういろいろな統計資料が刊行されています。特に私のオススメは「富山がわかる本」と「経済指標のわかる本」の二冊です。「富山がわかる本」は、県の特徴を統計データや図表などを使ってわかりやすく説明されていて、同時に統計のもつおもしろさも感じられます。また「経済指標のわかる本」は、いろいろな専門用語が氾濫する今日、不便を感じている方には、必携書といえると思います。次に、県民が直接参加できるものとしては、「統計グラフ全国コンクール」県予選があります。このコンクールは小学生以上なら誰でも応募でき、課題は自由。

本館二階にある部屋に入ると、所狭しと本や資料が並べられていました。

まず主な仕事の内容は「国の各府県や県の行政事務に必要な『統計調査』を円滑に行い、その調査結果を迅速に整理・公表すること」だそうです。具

体例を掲げると、県の人口を調べる人口統計調査や、消費者物価指数を決める

消費者物価統計調査などがあります。また今年十月一日に行われる『国勢調査』もその一つです。この調査は五年に一度

国内に住む全ての人を対象に行われるもので、国内の人口の実態などを明らかにするうえで大切な調査です。今回は特に

十年に一度の大規模なもので、特色としては「高齢化社会の実態」「産業構造の

変化」「人口移動、通勤・通学の実態」外

国勢調査



グラフの正確さと、構図・配色など全体のとめ方を審査します。普段何気なく書いているグラフに、ちよつと手を加えて、ぜひ一度チャレンジしてはいかがでしょう。

以上、簡単に統計課を紹介してきましたが、高度情報化社会の今日、自然、社会の事象や変化を数量的に表わす「統計」は、必要不可欠なもののように思われます。私たち県民も統計に少しでも興味を持ち、理解していく必要があるのではないかと思います。



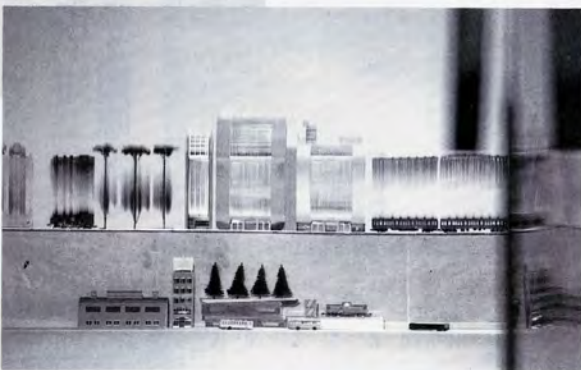
とある記
さるある
ふるみ

魚津市

波間に青紫の光を放つホタルイカ、縄文後期から遺された埋没林・水平線の彼方に浮かぶ幻の蟹気楼。ほんとに魚津って神秘的な所なんですね！

でも、神秘に誘われ訪れても、気ままな蟹気楼にはめったにお目にかかれない。観光客の期待に応え、いつでも見

「蟹気楼」をつかまえた男達



人工蟹気楼発生装置

られるようにという市の要請を受けて、日本カーバイド工業が試行錯誤の末、ようやく完成させたのが人工蟹気楼発生装置。蟹気楼は例年三月〜六月に、北アルプスの雪解け水で冷えた海面上の空気と暖かい空気の温度差で光が屈折して起きる現象で、人工発生装置はこの原理を応用したもの。液体による実験は外国にもあるけれど、自然と同じ気体を使ったのは世界で初めて。「気体をいかにして二層にするかが大きな課題でした。失敗も何度もありましたね。」この開発に携わっている日本カーバイド工業技術部次長の富川親信さん。この装置は遠方のビルや木々の模型が、約十メートル離

夜のしじまに響く「ら・こんせーる・のくちゅーる」の調べ

毎週水曜と土曜の夜七時過ぎ、魚津工業高校の音楽室から流れ出る吹奏楽のメロディー。合奏しているのは、仕事が終わってから駆けつけた会社員、歯医者さん、学校の先生、新聞記者にお坊さん…。楽団の名も「ら・こんせーる・のくちゅーる」夜演奏家と社



「ら・こんせーる・のくちゅーる」
富川さん



▲世界で初めて人工蟹気楼発生装置を開発した日本カーバイド工業の富川親信さん

さん。高校時代に吹奏楽に魅せられて東京の音大に進み、故郷へリターンしてこの学校の音楽の先生をしている。

もともとは魚津高校と魚津工業高校の吹奏楽部のOBが集まって六年前にグループが結成された。ところが同じ趣味を持つ人の輪は、だんだんと広がって、メンバーの住所も魚津・滑川黒部・上市・金沢…。現在メンバー数は、約六〇名。

年に一回、市民会館で定期演奏会を開く他、



▲「ら・こんせーる・のくちゅーる」の定期演奏会

魚津の町の音楽会、新川地区の吹奏楽祭、吹奏楽連盟のアンサンブルコンテスト等にも参加している。団員も若手を中心に、練習は和気あいあい。一生懸命やっている時にお互いの良さに気付いて熱いカップルも誕生している。「演奏してい

う〜んサンふじの上品な甘さ!!



▲魚津リンゴジュース

魚津市の郊外を歩くと、あちこちにリンゴ園が広がっている。ここで採れるリンゴは、開花から収穫までの期間が長いので、蜜が濃く、水分の多いのが特徴である。この魚津特産のリンゴを使った「魚津リンゴジュース」ができ上がり、今秋からの本格的な生産を目指している。「サンフジを絞ったままの無添加、果実一〇パーセントですよ」と魚津市農協加積支所の金坂隆男さんが胸を張るこのジュースは、リンゴそのものの上品な甘さで、さっぱりしていて

とても飲みやすい。

以前は、庭先にりんごを買いに来るお客さんに、ジュースで絞らたてを飲んでもらっていた。これが口コミで広がり、希望者も増えてきたことから、より多くの人に味わってもらおうと、製品化することにした。

「リンゴジュースは、味のふるさと便」として販売しようと思っています。箱も作り、ラベルも若い奥様向きのセンスのいいものにして」と、金坂さんは意欲満々。魚津リンゴの一〇〇パーセント果汁は、特産品として輝く日を待っています。

魚津市の概要
人口 49,618人
面積 200.75km²

「しんきろう」「ほたるいか」「埋没林」は、魚津三大奇観として有名。魚津総合公園には、日本海側最大規模の水族館がある。8月7・8日のたてもん祭りは、高さ15mの大柱に80余りの提灯をともした数本の大万燈を若者たちが引き回し、海上安全と豊漁を祈る勇壮な夏の風物詩である。



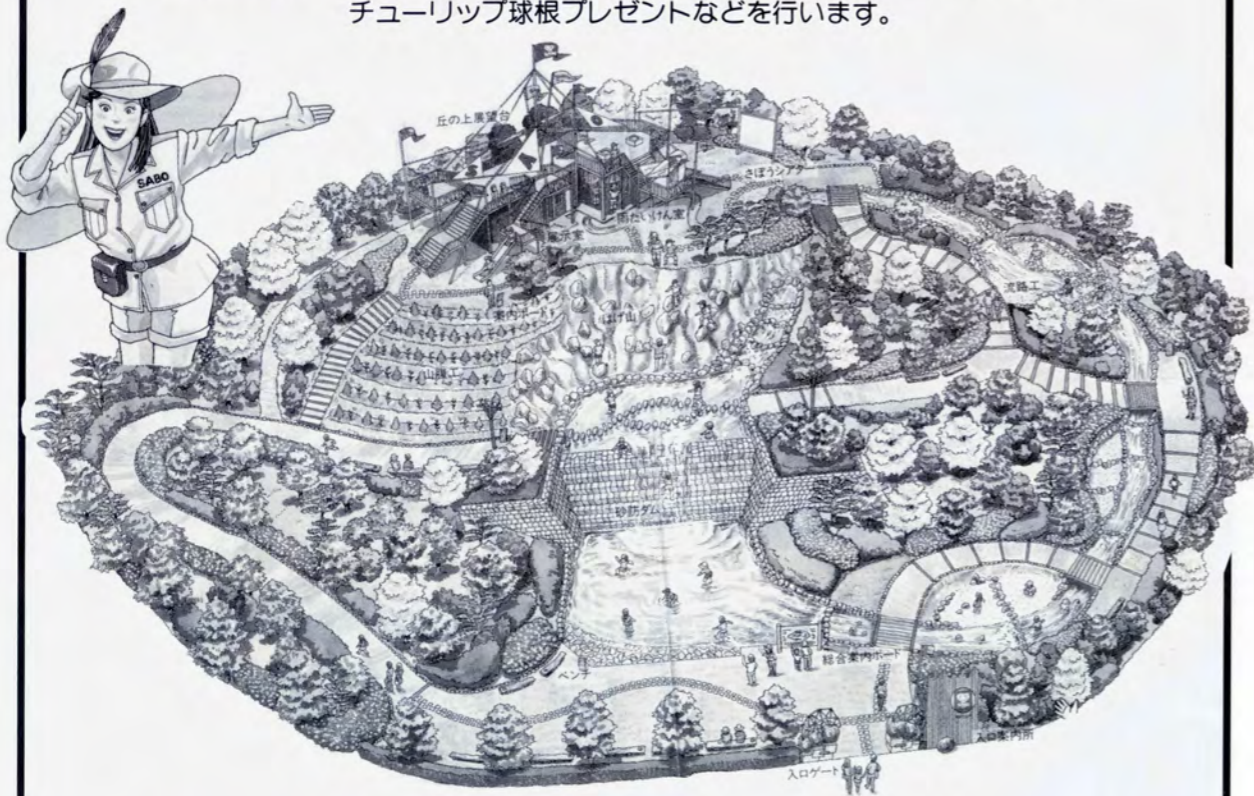
▲リンゴジュースの本格生産をめざす金坂隆男さん



花の万博—砂防への招待—

8月4日(土)5日(日)は『さぼうランド富山県の日』です。

建設省は、花の万博に「さぼうランド」を出展しています。
 そこでは緑の創造に寄与する日本各地の砂防事業が紹介されています。
 8月4日(土)5日(日)は、「さぼうランド富山県の日」として、
 立山砂防工事の模型(カルテラ・砂防ダム・トロッコ)・
 富山県の山・水・緑・花等の写真パネルの展示や、砂防宝さがし、笹舟流し、
 チューリップ球根プレゼントなどを行います。



丘の上展望台



さぼうシアター



砂防ダム



7月は納税強調月間です。

県民の皆さんには、県税の納付について日頃より御協力を頂きありがとうございます。
 県では、税の仕組みや役割りについて皆さんのより一層の御理解をいたいただくため、7月を「納税強調月間」としています。
 皆さんのより一層のご協力をお願いします。

不動産取得税について

不動産取得税は、不動産(土地及び家屋)を、売買・交換・贈与・建築等により取得された場合に、その不動産の取得者に一度だけ納めていただく税金です。なお、税率は4%で、住宅については3%となっています。
 一定の要件に適合する住宅・住宅用土地については、税が軽減されます。
 ◎税の軽減などについて、詳しくは、最寄りの県税事務所へお問い合わせください。

- へお問い合わせ先
- 富山県税事務所 0764-41-2551
 - 高岡県税事務所 0766-21-9411
 - 魚津県税事務所 0765-24-5311
 - 砺波県税事務所 0763-33-5151





6月1日から、
県精神保健センターに「こころの電話」を設置し、
ストレスや精神疾患など心の健康に関する
相談に応じています。

「こころの電話」の設置

電話は

(0764) 93-7272

- 受付時間 月曜日から金曜日
午前8時30分～午後5時
- 問い合わせ先 県精神保健センター
0764・93・7272
又は0764・21・1511

「夏の青少年を守る運動」

7月1日から8月31日まで「あたたか運動」を展開します。

- あ** 愛のひと声をかけよう
- た** 対話を進めよう
- た** 楽しい家庭をつくろう
- か** 環境浄化につとめよう

家庭、学校、地域社会のすべての人々が青少年を健やかに育てるよう努めましょう。



食品衛生週間●8月1日～7日

夏の健康は食中毒の予防から

例年7月から9月までは、一年で一番
食中毒の起こりやすい季節となります。

食中毒から身を守るために

次の三原則を念頭において、暑い夏を乗り切りましょう。

(1) 清潔

食品を細菌による汚染から守る
こと。



(2) 迅速

新鮮な材料を手際よく調理し早
く食べるようにしましょう。



(3) 冷却・加熱

食品は冷却するか、または熱を
加えて細菌を死滅させましょう。
なるべく生ものはとらないよう
にしましょう。

(注)冷蔵庫の過信は禁物です。
冷蔵庫の中にあまりモノをつめ
こまないようにしましょう。



「家庭の日」 作品募集

作文

対象―小学生及び中学生
四百字詰め原稿用紙五枚以内

図画

対象―小学生
四ツ切画用紙を使用のこと

ポスター対象―小学四・五・六年生及び中学生
四ツ切画用紙を使用し、「家庭の日」の
文字を入れること

- 提出先 各小・中学校、特殊教育諸学校
- 締切 9月上旬

家族ふれ愛・話し愛



毎月第3日曜日は家庭の日
富山県・市町村青少年育成富山県民会議・青少年育成市町村民会議

▶問い合わせ先
県庁婦人青少年課
(0764)31-4111 内線761

県政の動き

5月11日～6月10日

5月11日 富山県農業総合研修所竣工記念式典



5月13日 第28回富山県身体障害者体育大会
5月14日 知事のまちまわり(利賀村)
5月18日 消費者スクール開校式
5月19日 「消費者月間」記念富山県大会



5月24日 平成2年国勢調査富山県実施本部推進会議
5月25日 写真によるドキュメントトヤマ'90オープニング(～6月24日)
5月26日 第5回全国選抜ゲートボール大会(～27日)
5月28日 アメリカオレゴン州フォーレストグローブ市使節団表敬
5月29日 富山県人材確保対策本部会議
5月30日 新山の神トンネル竣工式
5月31日 第39回全国ろうあ者大会(～6月3日)
6月1日 富山県立大学開学記念式



ノーベル平和賞受賞者ノーマン・E・ポーログ博士知事表敬
6月2日 県展(～8日)
花と緑のフェスティバル(～3日)
6月5日 環境保全相談室開所式
6月7日 一日環境大学校
6月8日 人権啓発講演会



夏の交通安全県民運動

「青い空 心でつながろう 北陸路」

をスローガンに北陸三県統一の夏の交通安全県民運動が、7月21日(土)から8月20日(月)までの一カ月間展開されます。

運動の重点は、

- 飲酒・暴走・過労運転の防止
- 高齢者と子供の交通事故防止
- 二輪車・自転車の交通事故防止
- 正しいシートベルト・ヘルメットの着用

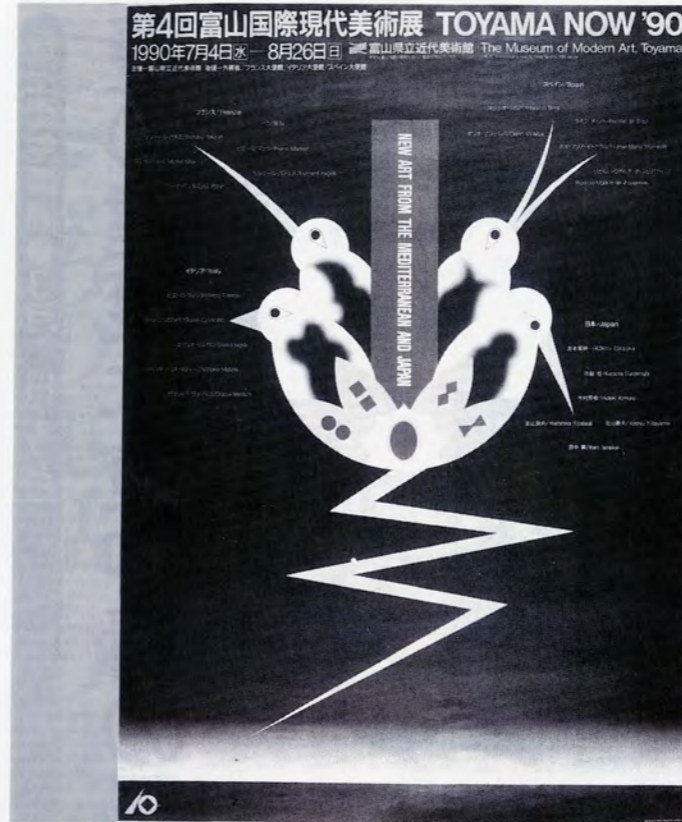
の四点です。

交通事故を起こしたり、交通事故にあわないよう、家庭・学校・職場・地域が一体となって交通安全の輪を広げましょう。



平成2年8月街頭献血日程

日	曜	場 所	時 間
4	土	高岡駅前 氷見市ハッピータウン前	10:00～15:30
5	日	滑川市「エール」ショッピングセンター前 黒部市「メルシー」ショッピングセンター前	10:00～15:30
6	月	大門町総会館前 大島町役場前	10:00～12:00 13:00～15:30
11	土	富山市「アピタ」ショッピングセンター前	10:00～16:00
12	日	富山市中央通り	10:00～16:00
17	金	下村役場前	10:00～15:30
18	土	富山西武前 富山西武前	10:00～16:00
19	日	井波町保健センター前	10:00～15:30
23	木	福光町福祉会館前	10:00～15:30
25	土	富山駅前 高岡駅前	10:00～16:00 10:00～15:30
26	日	高岡駅前	10:00～15:30



第4回富山国際現代美術展 TOYAMA NOW '90

開館10年シリーズ展の初回を飾る大型国際展です。「地中海からのメッセー」をテーマに、イタリア・フランス・スペインのラテン・ヨーロッパ三國に焦点をあて、日本を加え世界4ヶ國の現代美術を紹介します。

●日時 7月4日(水)～8月26日(日)

●場所 富山県立近代美術館企画展示室

●料金 一般 八百七十円
高生 六百六十円
小中生 三百八十円

●問合せ 0764・21・7111

近代美術館企画展

カルチャー

「野外で薬草を勉強する会」

●日時 7月27日(金)午前9時30分から午後4時まで

●場所 立山山麓 大品山周辺

●集合場所 立山山麓家族旅行村・管理事務所前(上新川郡大山町本宮)

●内容 富山医科薬科大学附属薬用植物園長吉崎正雄先生の指導のもと大品山周辺を散策し、薬草を勉強します。

※参加は無料です。

ただし、ゴンドラリフト片道料金が必ず要です。また、筆記用具、昼食、軍手、雨具を持参のうえ、ハイキング用の服装をお願いします。

▼申込・問合せ 富山県薬用植物指導センター
電話 0764(72)0801

米の新品種の名称募集

富山県では、米の新品種「富山27号」の名称を募集しています。

＜応募要領＞
ハガキに七文字以内でカタカナを使わない名前を一点記載の上、住所・氏名・年令・職業(学校名・学年)電話番号を明記願います。

＜送り先＞
〒930 富山市新総曲輪一番7号
県庁農産園芸課「富山27号」名称募集係

7月31日締め切り(当日消印有効)

※最優秀作品には、賞金25万円の外記念品を贈呈します。詳しくは、県庁農産園芸課(内線568)まで。



表2	エッセイ/兼久文治
P1	ひと/立川志の輔さん
P2	クローズアップ
	①写真によるドキュメント・トヤマ
	②「小年時化」試写会
	③全国ろうあ者大会
	④全国選抜ゲートボール大会
P6	《特集》農業
P12	PIN UP TOYAMA
P14	ジェットスキー 撮影/赤羽仁論
P16	県庁探訪/統計課
P18	ふるさととみである記/魚津市 県からのおしらせ

●表紙/県総合体育センタープールで練習に励む小野郁さん

「去年一年間は、精神的にずいぶん落ち込みました。でも今は完全に脱皮しました」と、明るい笑顔で話す彼女。水泳に打ち込む青春は、とてもまぶしかった。

撮影/滝川邦彦(日本写真家協会会員)



交通事故については
富山県交通事故相談所東別館1階
☎(0764) 31-4111内759

相談110番
家庭問題・悪質商法・覺せい剤など、どんな相談にも応じます。
☎(0764) 42-0110

シルバー110番
高齢者や家族の心配ごと、悩みごとに富山県高齢者総合相談センター
富山市舟橋南町5-14
社会福祉会館内
☎(0764) 41-4110

消費生活については
消費生活センター
富山市安住町7-18
安住町第一生命ビル内
(一般相談は)
☎(0764) 32-9233
(金融相談は)
☎(0764) 33-3252

消費生活センター高岡支所
高岡市本丸町7-1
本丸会館内
☎(0766) 25-2777

県政については

県民相談室 富山市新総曲輪1-7(県庁内)
☎(0764) 31-4111代
31-3131(県民電話)

高岡地方県民相談室 高岡市赤祖父211(総合庁舎内)
☎(0766) 21-9411代

魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7(総合庁舎内)
☎(0765) 24-5311代

砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7(総合庁舎内)
☎(0763) 33-5151代

みなさんの相談窓口

県からのホットニュース ▶KNB「こんにちは富山県です」の放送時間が毎週日曜日午前9時30～10時に変わります。

テレビ広報	ラジオ広報	新聞広報
<p>●北日本放送 毎週日曜日 AM9:30～10:00 「こんにちは富山県です」 7/1 活発化する企業のスポーツチーム 7/8 自然の解説人ナチュラリスト 7/15 女性ネットワークセミナー 7/22 森と湖に親しむ 7/29 開幕まであと2年ジャパンエキスポ・富山</p> <p>●富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00～9:30 「110万人のひろば-クイズ/フォーカス・イン」</p>	<p>●FMとやま 「ふれあいホットライン」 県内各地からホットな話題をクリアなサウンドでおとどけます。 毎週月～金曜日 AM9:30～9:35</p>	<p>●北日本、富山、読売、北陸中日 毎月第2土曜日 「県からのお知らせ」 毎月最終土曜日 「みんなの県政」 ●朝日、毎日 毎月第2、最終土曜日 「県からのお知らせ」</p>

編集後記

★写真家の荒木氏曰く、「写真は思想やアイデアではなく、生理で撮るものである。」

広報誌はなんといっても写真が命。これからも、ニュースのあるところ、情報のあるところ、道ある限りの精神で、いい表情を撮り続けたいと思います。(T)

★ギンキラギンの窓の外。真夏を思わせる日射に、県庁前公園の樹々がユラユラと揺いで見えます。魚津の蟹気楼発生装置取材の影響かしら。それにしてもこの机の書類の山は、なんとかなんない。(N)

★軽妙な語りで笑いを誘う立川志の輔さん。取材の時もついつい我を忘れて聞き入り、メモをとる手がお留守になりがちでした。本当にプロは違うと感心しながらも、負けじと「エー毎度ばかばかしいお話をひとつ。…」お後が続かないようです!(M)

擬ルネサンススタイルの建築

とやま心象27
『富山の建築百選』をみる

牧田組(旧南島商行)
大正六年 設計・不詳

日本海側で有数の海運業者であった南島の商行の社屋。南島家は幕末の頃より北前船の大船主として有名で、明治期にはいち早



く汽船を導入して、機を見るに敏であった。第一次大戦の戦時景気に乗じて大きな利益を上げ、事業を拡張し、本社社屋としてこの建物を建てたのである。けれども戦後に襲った不景気で社運傾き、大正十一年には整理されてしまった。牧田組の社屋になったのは昭和十年頃である。

この建物は煉瓦造擬ルネサンス・スタイルの建築である。但し真正の煉瓦造ではなく、主体構造は木造で煉瓦を貼ったものである。日本は、木造建築技術に関しては、江戸時代既に世界一の技術水準にあり、それは全国に普及していた。したがって、明治後期や大正、昭和初期に建てられた地方の、あるいは市井の西洋建築は、構造を手慣れた木造で造ってしまい、西洋組積造(石造、煉瓦造)の形態はその上に、石板、煉瓦、煉瓦タイルなどを貼って作るという木骨石貼・煉瓦貼建築であることが多いのである。

デザインは、基部をルスティカ風石貼(ルスティカとは粗削りの矩形の巨石を一階部に積み込む意匠で、ルネサンスのパラッツオ即ち宮殿建築に用いられた)とし、焦茶色の煉瓦を貼り、マンサード(腰折れ)屋根を架ける。建物角に積み込んだコーナ



ものではなく、自由な造形が見られるが、模式的な要は押さえており、東京から設計士を呼んだと言う伝えも信憑性が高い。伏木港の繁栄を今に伝える貴重な建物であると同時に、西洋様式建築としては富山銀行本店に次ぐものであり、この二例以外にはもう存在していないので、この面からも貴重である。牧田組がこの建物を現在まで用い続けたことによって、この建物が保存されて来た訳で、同社のこの建築作品に対する愛情に感謝したい。

解説/竺 覚暁(工学博士富山大学名誉教授)
写真/風間耕司(日本写真家協会会員)

ダメ。ゼツタイ。

YES TO LIFE NO TO DRUGS



病を地球人を救うのは、
地球人しかいないからOKじゃ。

みんなで追放しよう、「シンナー」「覚せい剤」

シンナーや覚せい剤の乱用が大きな社会問題となっています。

これらの薬物は、一度使い始めると自らその使用をやめることができなくなります。

また、繰り返し使用すると幻覚や妄想等の精神障害が現われてきます。

このことが原因で凶悪な犯罪や悲惨な事故が多く発生しています。

このような乱用者本人の人格が侵されるばかりでなく、

社会全体にも計り知れない弊害をもたらす薬物の乱用を根絶するには、

一人ひとりが薬物乱用の怖さを理解し、乱用を許さない社会環境をつくるのが大切です。

薬物で困ったり悩んだりしている方や、そうした人を知っている方は、

最寄りの派出所・駐在所・警察署または警察相談110番

「0764・42・0110」へお気軽にご相談下さい。

